様式３

学校番号 特１

令和４年度　学校評価書　（実施段階）

福岡県立築城特別支援学校

自己評価

学校運営計画（４月）

学校運営方針	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導を通して、個々に育成すべき資質・能力をバランスよく伸ばすとともに、健康な心と体を育む。あわせて障がいによる学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服する力を育て、将来の自立と社会参加に向かって生きる児童生徒を育成する。		評価（総合）
前年度の成果と課題	**年度重点目標**	**具体的目標**	B
コロナ期にあっても安全安心な環境で充実した教育活動を行うことができた。今後、更なる継続性や一貫性のある指導の向上に努め、ICTの有効活用等により授業力の向上を図る。また体罰やいじめの未然防止に努める等人権を尊重し、保護者や地域の信頼を得る社会に開かれた学校づくりを行う。	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応える指導の充実	カリキュラム・マネジメントに基づく計画的な指導やICTの有効活用等により授業力の向上を図る。個に応じたきめ細かな教育を実践し指導の継続性と一貫性を図る。	
	児童生徒が安全に、安心して学ぶことができる教育環境の整備	個別の合理的配慮や教育環境整備に努める。日常の危機管理意識を高めるとともに、いじめや非行の未然防止に努め、児童生徒の人権を尊重する教育活動を充実させる。	
	保護者や地域から信頼を得る開かれた学校づくり	保護者のニーズを指導に生かし、関係機関との連携を深め、児童生徒の健全育成に資する。交流及び共同学習、地域活動の充実やホームページ等での本校の情報発信に努める。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教育運営部	・障がい特性や課題に応じた教育課程の編成 ・教育部門や学部の特性に応じた学校行事 ・教育支援計画、指導計画の策定・活用におけるシステム及び運用マニュアルの改善	・教務課説明会等を通して、児童生徒が主体的に学べる環境整備や授業づくりなどについてのポイントを職員へ周知する。	A	A	B	・小中高の系統性を意識した学部間共通の年間指導計画の様式を提案し、作成する。 ・新学習指導要領に基づく「生きる力」を育む授業づくりを目指し、カリキュラムマネジメントの推進に努める。 ・今年度の成果をふまえて、職員の意識の向上に努めつつ個別の教育支援計画や各種公簿等の作成を遺漏なく行う。 ・iPad等, ICT機器の配備は進んだが、故障対応などの管理に関する課題が出てきている。適切な管理に向けた情報発信に努める。 ・ICTの活用について、ICT支援員と連携した研修体制の構築に努める。
		・児童生徒が学習に取り組む際の物的環境を整えるとともに、授業改善や行事への取組について共通理解を図り、組織的な行事の運営を行う。	B			
		・教育支援計画、個別の指導計画等、各種計画の意義やスケジュールについて発信し、職員の意識の向上につなげるように努める。	A			
	・安定的なネットワーク環境の維持 ・情報に関する職員の活用能力向上 ・ICT活用推進委員会と連携したICT活用への取組	・障がいの多様化に応じた教育活動の充実を図るためICT機器の活用の推進を図り、それに伴う環境整備を行う。	B	B		
		・ホームページの構成を再構築して内容の充実を図り、情報の更新を速やかに行う等、学校の取組をより分かりやすく伝えることに努める。	A			
		・PCやタブレット端末のデータや紙媒体の保存管理を徹底し、個人情報の管理及び、各種データ消失の防止とバックアップ体制の構築を図る。	B			
教育指導部	・集団活動での自主性と規範意識の育成 ・マニュアルの改善と訓練による周知徹底 ・安全な通学のための関係者の連絡と連携	・学校生活アンケートやいじめ防止対策委員会を積極的に活用し、いじめの早期発見や再発防止に努める。	A	A	A	・危機管理マニュアルの見直し、改善は次年度も必要である。また、次年度も児童生徒の安全を保障するために全職員への危機管理マニュアルの周知徹底を図る。 ・次年度も毎日teamsへ添乗員日誌をあげることで通学バス内での問題解決に向けて迅速に対応できるようにする。 ・次年度も学期に一回以上の緊急時シミュレーションを行うことで、緊急時対応の方法の周知を図れるようにする。 ・コロナウイルス感染症が5類に引き下げられる予定のため、校内での対応方法を児童生徒・保護者・職員の間で共通理解できるようにする。 ・各種マニュアルや、保健関係の決まりを定期的に周知し、職員の理解を深める。
		・危機管理マニュアルの周知徹底を図り、緊急事態発生時に児童生徒の安全が確保できるようにする。	B			
		・通学バスの利用や自主通学についての安全確認・安全対策についての周知徹底を図る。	A			
	・保護者や医療機関との密な連絡による児童生徒の健康管理と緊急時対応の充実 ・研修等による健康で安全な教育活動の充実 ・安全な学校給食、食に関する指導の充実	緊急時対応シミュレーションを各学部学期に1回行うよう働き掛け、全職員に緊急時の対応方法の周知を図る。	A	A		
		・毎月の安全点検の実施や毎日の職員清掃消毒作業を通して児童生徒が安全に学習できる環境を整えるようにする。	A			
		・ヒヤリハット事案を収集、分析、共有したり、アレルギー対応が必要な児童生徒の情報を共有することで事故を防ぐ。	B			
支援連携部	・安全・安心な実習の実施 ・小・中・高の一貫したキャリア教育の充実 ・「ついきモデル」の推進 ・卒後支援の充実	・各学部、保護者、関係諸機関と連携を図り生徒の進路実現に努め、社会状況に応じた実習や学習を計画、実施する。	B	B	B	・他校との情報共有も含めた、進路先の開拓を継続して行う。 ・長期休業を利用して、施設紹介や福祉サービスの説明、職員間での情報交換をする機会を設ける。 ・あいさつコンクールを効果的でより良い取り組みになるように努める。 ・子どもたちの挨拶の様子を学部全体で共有できたので、次年度以降も継続したい。 ・PTAや同窓会との連絡調整を行い、さらに円滑な運営ができるように努める。 ・各関係機関との密な連携を継続していく。 ・更衣室ロッカーや靴箱の不足を解消し、職場環境の整備に努める。
		・職員を対象にした研修会や情報提供等を通して、小・中・高の発達段階に応じた適切な進路指導（含卒後支援）がなされるようにする。	B			
		・各キャリア発達段階に応じた挨拶の学習を計画、実施する。	A			
	・PTA、同窓会活動の円滑な運営支援 ・地域や関係機関との連携と学校の活性化 ・職場環境の整備・充実	・PTA、同窓会との連絡調整を密に行い、その円滑な運営を支援する。	A	A		
		・地域、関係機関、ボランティアとの連携協力を図り、学校教育活動の活性化を推進する。	A			
		・職場環境の整備・充実に努める。	B			
研修部	・計画的な研修を通した、職員の授業力向上 ・初転任者研修の充実とサポート体制の構築 ・校外の研修会への参加と報告等による専門性の維持・継承	・学校研究において、昨年度再構築した年間指導計画を改善するとともに、グループ協議を活かした質の高い授業を実践する。	B	B	B	・本校独自の研修体制である築城スタイルを活かし、日々の授業実践に資する学校研究を推進する。 ・専門性を維持・継承できる効率的で効果的な研修会の実施へ向けて改善を重ねる。 ・職員のニーズを調査し、理論研究や実践力向上のための参考書籍を充実させる。 ・確実に実施できる研修体制を検討し、当日の機器操作や係分担を綿密に行う。 ・今後も継続して放課後等施設に関する利用状況を把握し、地域資源の情報等を保護者や職員に提供する。 ・人権に関する取組を計画的に行い、参考資料や情報提供の仕方を検討する。
		・職員のキャリアステージに応じた研修会を精選して実施するとともに、経験豊富な人材の知見を活かす研修体制を整備する。	B			
		・各種研修会の案内や報告会を行い他校の実践等を本校の教育活動に活かすとともに、参考書籍を充実させ自己研修に資する。	A			
	・校内及び幼保小中高への支援の充実 ・関係機関との連携及び地域資源の情報の収集と発信 ・人権教育に関する資料や情報の提供	・校外及び校内の教職員の声を基にニーズを見定め、研修の形態や内容を工夫して支援の充実を図る。	B	B		
		・他課と連携し、各学部グループからの情報収集を行い、特別支援教育や変化する地域資源に関する情報を定期的にHP等を通して提供する。	A			
		・各学部や部門の担当者と連携しながら、より身近な日常に目を向けた情報を定期的に発信し、人権教育の充実を目指す。	B			
知的障がい教育部門	・PDCAサイクルによるカリキュラムマネジメントの推進と数年後を見据えた教育課程の改善 ・児童生徒に関する情報共有と指導に関する共通理解 ・障がいの多様化に応じた学習環境づくり ・児童生徒の実態に応じた効果的なICT活用の推進	小学部：年間指導計画、単元指導計画を縦断的・横断的視点で作成・修正・改善を行う。また、ICT活用による児童の学習意欲の向上を図る。障がい特性に応じた学習環境作りや指導の工夫を行う。	A	B	B	・新様式による年間計画の作成、活用、改善を行い活用を目指す。指導内容チェックリストを活用し、的確な実態把握、共通理解に基づいた指導の充実を目指す。（小） ・ 日々、児童の意志を尊重した指導を心掛け、職員の人権意識を高く持てるようにする。学部通信、ホームページの発信の充実を図り、保護者と連携した指導を目指す。（小） ・年間指導計画の見直しと段階的な単元指導計画の作成し、指導の充実と共通理解を図る。ICTの効果的な活用とコミュニケーション能力の向上を目指す。（中） ・生徒の実態や状況を把握し、教師の人権意識を高め、適切な指導を行う。ヒヤリハット事例の共有とシミュレーション訓練を通して危機管理意識を高める。（中） ・作業学習の他の単元や教科の計画を見直し、実態に即した目標設定、学習を実施する。性に関する指導、ICTのコミュニケーションツールとしての活用を検討する。（高） ・生徒への接し方について定期的に顧みる機会を設け、教師の人権意識を高める。集会や個別指導でいじめ防止やSNSの使い方、障がい受容の学習を行う。（高）
		中学部：年間目標や学期目標、個別の目標と年間、単元指導計画の明確化により、指導の充実と計画の作成、実践、評価、修正改善を行う。また、ICT活用により生徒の「できる」「わかる」ための授業実践とコミュニケーション能力向上を図る。	B			
		高等部：個別の指導計画や年間指導計画との連携を明確にし、生徒が理解しやすく達成可能な目標設定を心掛ける。生活年齢や実態を踏まえた性に関する指導や言葉遣い、マナーに関する学習を計画的に実施する。ICTを活用し生徒が「できる」「分かる」指導方法を工夫する。	B			
	・緊急シミュレーションやヒヤリハットの共有による危機管理意識の向上と維持 ・各学部の課題共有と部門、分掌の連携強化 ・児童生徒との関わりや環境整備の振り返りによる人権意識の向上 ・保護者への情報発信、外部機関との連携強化	小学部：ヒヤリハット事例の共有を行うとともに緊急時シミュレーションを通じて危機管理意識を高く持つ。人権を意識した教育活動を心掛けると共に学部内の職員の調和的な連携を図る。様々な通信、ホームページによる情報発信に努め、保護者との協力体制を整える。	B	B		
		中学部：生徒の発言と思いの両面に寄り添い、安心して学べる環境作りを心掛け、ヒヤリハット事例や緊急時シミュレーション訓練を通して常に危機意識を持ち、安心・安全な教育活動の充実を目指す体制づくりを行う。	B			
		高等部：生徒の人権を守り、話し言葉に頼らず思いを読み取ろう努め、生徒への接し方を定期的に顧みる機会を設ける等、教師の人権意識を高める。いじめ防止やSNSの使用法に関する学習を設定し、他者と豊かに関わる力を育てる。学校HPを適宜更新し学部の取組の情報発信を行う。	B			
肢体不自由教育部門	・ICT機器を含めた児童生徒実態に応じた支援機器の活用 ・部門全体での教育課程の検討 ・指導の結果、成果を残し、次の指導に生かす教育システムの見直し	小学部：障がい特性や類型に応じ、三観点を意識して、目標と評価が一体となった指導に努める。またICTを有効に活用したり、児童の実態に応じた教材・教具を工夫する等、「できる」を実感できる授業実践を目指す。進路情報の発信に努め、発達に応じたキャリア教育を推進する。	B	B	B	・ICT機器の操作や必要性をその都度確認しながら、有効に活用する。（小） ・進路に関して、肢中や肢高の職員と意見交流の場を設定して、小学部段階でどんな力が必要であるかについて学び、そのことを踏まえて児童に関わったり、保護者へ発信したりしていく。（小） ・学部会等でミニ研修を取り入れる。（中） ・生徒の各教科・領域等の目標について共通理解を図る時間を設定する。（中） ・ICT機器の活用を合理的配慮などの観点から個別の指導計画や年間指導計画などに位置づけ、積極的に取り組む。（高） ・自立活動の指導だけでなく、教科等の指導においても、目標と内容と評価の一体化を図る（活動ありきにならないように）ため、学習計画等の充実を図る。（高） ・小中高で縦割りの交流（キャリア教育についてや学習内容や指導方法などについて交流する場を設定）を行い、小中高の連携を図る。（全）
		中学部：個別の教育支援計画とそれに基づく個別の指導計画及び年間指導計画を連動させ、単元ごとの評価・見直し・修正をすることで実践の積み上げを行う。教員間での学び合いや部門を中心とした研修会等を行い、専門性を高め、指導力の向上に努める。	B			
		高等部：生徒の実態や新学習指導要領を踏まえた目標及び内容の検討、実践、評価を学習グループを中心に取り組み、PDCAサイクルによる授業の充実や授業改善を図る。先行実践に学びながら、生徒の実態やニーズに応じた有効なICT活用を模索し、実践を積む。	B			
	・整理整頓、構造化され分かりやすい教室環境 ・支援機器等を活用したコミュニケーション支援 ・地域社会とつながることのできる教育活動 ・校外学習や社会見学等を見直し、ICTを活用した交流等の検討	小学部：定期的に訓練を実施することで緊急時に適切な対応ができるようにする。ヒヤリハット事例の報告や情報共有を行い怪我や事故の予防に努める。通信等を通して「できる」を共有・発信し、相互の理解を深める。保護者や医療・福祉、行政などと連携・協働して教育活動を進める。	A	A		
		中学部：生徒の健康管理、事故防止に努めるとともに、管理職や看護職員、医療や福祉、関係機関等と連携を行いながら、安心・安全な教育活動の充実を目指す。進路情報も含めた情報発信を積極的に行うことで説明責任を果たす。	A			
		高等部：生徒が安心・安全に学習できるように、危機管理体制の充実及び基礎的環境の整備に努めるとともに、保護者や地域の信頼を得るため、積極的な情報発信及び保護者への丁寧な説明に努める。医療的ケアなどについての見識を高め、事故や怪我予防に努める。	A			

自己評価及び学校関係者評価委員会の評価をもとにまとめた改善策

・教育運営部では、計画と実践の結びつきや目標と評価の手立てについて検証を絶えず行い、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応える指導の一層の充実を図るとともに、タブレットの活用を含め、ICT機器の適切な管理に向けた情報の発信に努める。
・教育指導部では、ヒヤリハットの事案について事後の口頭の報告・周知に加え、改善策を次に生かすよう努めるとともに、危機管理マニュアルを随時見直し改善し、全職員への周知徹底を図る。また、各種マニュアルや、保健関係のルールを定期的に周知し、職員の理解を深める。
・支援連携部では、個々の最終的な進路に向け、見通しをもって指導して欲しいとの評価を受け、他校との情報共有も含め、生徒の進路希望や的確な実態把握を基に、進路先の開拓を継続して行うとともに、本校での12年間の教育の展望が図れるよう体制づくりを行っていきたい。
・研修部では、築城スタイルを活かして授業実践に資する学校研究を推進し、教員の専門性を維持・継承できる効率的で効果的な研修会を創造するとともに、OJTを通した人材育成を推進する。
・知的障がい教育部門では、小中高の教員の意識のつながりを図り、12年間で育てるという意識をもって教育活動を行っていきたい。そのためにも、小中高の教員が的確に児童生徒の実態把握や状況を把握して共通理解に基づいた適切な指導の充実を目指し、 日々、児童生徒の意志を尊重した指導に努め、職員の人権意識や危機管理意識を高めていきたい。
・肢体不自由教育教育部門では、ICT機器の有効活用に努めるとともに、進路に関して部門内での意見交流を行い、系統的、継続的な指導を図っていきたい。教科等の指導では、A類型の経験を基に、目標と内容と評価の一体化を図り、学習計画等の充実を推進したい。また教員の腰痛や精神的ストレス等への対策も行っていく。

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は
B	Ａ：適切である Ｂ：概ね適切である Ｃ：やや適切である Ｄ：不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	教育課程の説明会等の内容が浸透しており、授業参観すると一対一の個別対応ができている先生が多いと感じる。計画と実践の結びつきや目標と評価の手立てについて、検証を絶えず行って欲しい。タブレットの家庭での使用について、必要性が高い部門を優先する等、検討して欲しい。
A	医療的ケアの場合は行われているようだが、通常のヒヤリハットの事案についても、事後の口頭の報告・周知だけでなく、どういう対応を行ったとか、手順を変えることでうまくいった等、事績を残し、今回の改善策を次に生かすよう努めて欲しい。
B	個々の最終的な進路に向け、見通しをもって指導してほしい。目指す生徒像として、卒業後も人間としての存在価値をしっかり認めてもらえるよう、職員全員が人権に配慮し、生徒が成就感を持ち、自分の気持ちをしっかりと他者に伝えることのできる人材育成を行って欲しい。
B	指導者の力量を最大限に高めるよう、人材を育てて欲しい。そのためにも、有意義な研修会はもちろん、日々のＯＪＴも大事。意識ある先生はＯＪＴを通して成長する。この職場で自らを成長させたい、仕事をやり続けたいと思えるような学校づくりをして欲しい。
B	知的部門の小中高の教員の意識のつながりや連携が図られ、意思がスムーズに伝わる学校にして欲しい。子ども達の育成に関して、学部間の共通理解を持って１２年間で育てていくという意識をもって教育活動を行って欲しい。その意味で、今回、教育課程実践交流会で設定した「目標の木」には意義がある。学部間の人事交流を図るのも有効である。
B	Ａ類型の指導もしっかりやっているので、自信をもって外部にアピールして欲しい。本校の教育環境について、車いす等を使用する子どもの移動が困難な状況の改善に向けて、粘り強く県に要望していかなければならない。教員の腰痛や精神的ストレス等への対策も一層行って欲しい。

評価項目以外のものに関する意見

・安全安心やスムーズな教材の活用のためにも、一層の教室内等の環境整備を心がけて欲しい。
・来校の度、子供達や様々な学級等の先生が明るく挨拶してくれる。このアットホームな雰囲気は、今後も是非大事にして欲しい。